

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21 年 4 月 30 日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3470203005
法人名	特定非営利活動法人もちもちの木
事業所名	グループホーム土橋のおうち
所在地	広島県広島市中区土橋町5-35 (電話) 082-294-9346
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4丁目46-9
訪問調査日	平成21年3月28日

【情報提供票より】(21年 3月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 13年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	13人 常勤 4人, 非常勤 8人, 常勤換算 4.4人

(2) 建物概要

建物構造	RC造り
	4階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000円	その他の経費(月額)	12,000円	
敷金	有(100,000円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,400円	

(4) 利用者の概要(3月 20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	0名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.7歳	最低	78歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団藤田医院 広島記念病院 もちもちの木歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地の平和公園の近くにあり、交通にも至便な場所に位置している。当法人は、デイサービス・ヘルパーステーションを併設し、小規模多機能的な事業運営がなされている。旅館を改装した建物で部屋の間取りや広さは画一的ではないが、必要に応じて手すりの設置や福祉用具の導入が行われている。職員一同“ケアはプロの知識と技術で、心は家族の思いで”と、日々入居者に接している。日赤看護大学の協力で、日々の介護記録をデータ化しており、ケアの向上に努めている。家族への情報提供として、インターネットでも閲覧できる。大学との協同研究でスヌーズレンという技法で癒しの空間を提供する試みも始まっている

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で特に改善課題はない。理念に基づき、日々向上心とやさしさをもってケアの向上に努められている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は事業所の内部や地域への協働面まで、細部にわたって反省や改善点が記されて、改善の方向に話し合い等が進められている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議への参加者は事業所に対し大変協力的である。事業所の力を生かした地域貢献として、認知症、介護、介護保険、障害についてなど、積極的に地域の方に学びの場を提供することを目指している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情担当者や苦情箱が設けてある。県や市の苦情窓口も契約時に知らせてある。日頃から意見、不満、苦情を言いやすい関係づくりを目指し、努力されている。出された意見、要望等は、話し合い、サービスの向上へと反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の会合や行事に積極的に参加している。事業所だよりを町内会に配布したり、気軽に事業所見学を受けたり地域の方へ理解を得ながら、交流は積極的に行われている。近所の方にもよく理解され、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしい心 迷ったりさがさぬよう そばにいるよ！」を理念として、皆がふつうにくらせるしあわせを守っていききたいと、その人らしく暮らせる居場所づくりを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々利用者に関わる際に、理念を具体化していくことを意識して取り組んでいる。		前理事長亡き後もその意思を引き継ぎ、変わらぬやさしい心をもちながら、日々のケアの中に取り組んでおられる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の会合や行事に積極的に参加している。事業所だよりを町内会に配布したり、気軽に事業所見学を受けたり地域の方へ理解を得ながら、交流は積極的に行われている。		一日体験、中学生の体験学習、実習生の受入れなど地域の方へ積極的に学びの場を提供している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の自己反省を基に運営者・管理者と職員が意見交換を行い、常に改善に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催され、参加者は、地区民児協会長・地区社協会長・地域包括支援センター・広島県認知症の家族の会代表・利用者・利用者家族・グループホーム管理者で、報告や話し合いを行っている。		

グループホーム土橋のおうち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護高齢係や地域包括支援センターとは入居者の生活状況の伝達や各種の報告を行って日常的に連携されている。顔の見える関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	最低でも月に1回は、毎日の様子や行事等の報告を家族へ送っている。また、事業所や利用者の状況報告などインターネットを通じて閲覧できるようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者や苦情受付箱が設けてある。県や市の苦情窓口も契約時に知らせてある。日頃から意見、不満、苦情を言いやすい関係づくりを目指し、努力されている。		
9	18	職員の異動等による影響の配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率が高い。代わる場合においては、新旧職員が同時に勤務したりし、利用者へのダメージを防ぐ配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修にも積極的に参加し、その報告を会議で行い、共有できるようにしている。働きながらの学びの機会がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と定期的な交流ネットワークがあり、情報交換や勉強会を実施している。		

グループホーム土橋のおうち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>グループホームの入所前に当法人のデイサービスや訪問介護等利用されることで、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるように工夫されている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活を行う上での仕事等を一緒にし、出来ることを認め合い、出来ないところは、学んだり支えあって生活されている。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員が一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握に努めている。意志の疎通が困難な場合は、本人はどうかという視点に立って、意見を出し合い、話し合っていく取り組みがなされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族には、日々のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。毎月行われているモニタリング会議で、アセスメントを含め職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。その内容は必ず家族に報告されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、設定された期間ごと、見直しができるよう努めている。期間にとらわれず変化に応じて本人、家族、関係者と話し合い、臨機応変に見直ししていく姿勢が見られる。</p>		

グループホーム土橋のおうち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能的な事業運営をしており、デイサービスと逆デイサービスなどを互いに利用したり、個別の有償サービスで対応したり、多彩で柔軟な支援が行われている。		日赤看護大学との共同研究としてスヌーズレンという音楽と光を使った技法で癒しの空間となる一部屋を提供し、利用者が落ち着くことができる環境づくりに取り組んでいる。 (スヌーズレンは広島で初めて)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力しかかりつけ医の受診支援を行っている。複数の医療機関と連携をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対するあり方について、家族・医師を交えて話し合いを行っている。状態の変化があるごとに、家族の思いや本人の思いに沿えるよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的に確認と改善に向けた取り組みがなされている。記録等の個人情報は、インシタルで行い、守秘努力をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の望みを知ることが大切にし、個別のタイムスケジュールを組み、それに応じて柔軟に支援されている。		

グループホーム土橋のおうち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に買い出しに行ったり、献立を考えたり、一人ひとりの食に対する思いが満たされるように日々の努力がみられる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの気持ちや習慣に合わせ、最低2日に1回は、入浴を楽しんでいただけるよう配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の習慣、希望、有する力を踏まえて、何がその人の役割、楽しみ事になり得るかを把握し、支援する努力がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、本人の希望に応じて、日常的に散歩、買い物、ドライブ等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけないで支援していく努力をする意識や姿勢が徹底されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、自治会や運営委員会等で協力を呼びかけている。		

グループホーム土橋のおうち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが一日全体で栄養や飲水量がどの程度とれているか記録をつけ、情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が、個々の利用者の居心地の良い場所になるように、工夫されている。明るく家庭的な安らぎが感じ取られた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれたものを本人の意向を確認しながら、その人らしい居心地のよい居室づくりに取り組まれている。		